

「挑戦的デザイン」の背景には 「粛正ムードへの反発もある」

「M2」で閉塞状況の打開を狙った若手論客の戦略

バブルの時代のあだ花か、あるいは崩壊後に咲いた新種の花なのか。こんな物議を醸しそうな

刺激的なデザインの建物を、若手建築家の隈研吾氏が完成させた。自らこの作品を「自分のメルクマールとなるだけでなく、時代のメルクマールとなる」と位置付け、進んで「まな板の鯉」になることを宣言した。若手世代の論客として知られる氏に、作品に込めた思いを聞いた。

——バブルがはじけて、今、建築界には、商業主義的な消費のデザインに対して、見直そうという気運が高まっています。そうした中、隈さんは「M2」(38ページ)を完成させました。この建物のデザインはかなり刺激的ですが、悪く言えば、見直しのムードに逆行するような形で登場してきたと見られなくもない。この時期にあえて「レミックな(批判を呼ぶ)建物を

くつたのはなぜなのか。まず、そのあたりの意図から聞かせてもらえますか。

僕は1986年にアメリカから帰国して『グッドバイ・ポストモダン』(20ページ)を書いていたとき、近年の日本の状況は1920年代のアメリカの状況によく似ているな、と思っていました。そして、そのとき、既にこういう状況は、長続きしない、ポストモダンもバブルもじきに終わりだな、とも感じていたんです。

バブルが崩壊した今、時代はポストモダンのデザインを見直そうという気分になっている。確かにポストモダンのものがバブルであったことは間違いない。バブルの崩壊とともに、これまでのポストモダンのものに対する建築界の疑念のようなものが一気に吹き出してきたように思います。

た背景の中で、世の中にあえて問いたかった作品と、言うわけです。

——ポストモダンに対する見直しのムードはあるけれども、一方で、迷える時代にもなっていると隈さんはとらえている。そんな迷える建築界に、「二石を投じるつもりで、今回の作品をつくった」ということですか。

そうですね。だから、その意味では、これは逆に、バブルの時代にできなくて良かったと思っているんです。バブルの時代にできたら、「ポストモダン後」を問うたこの作品も、効果は薄かったんじゃないでしょうか。見てくれは、まさに「バブルの産物」だと言われるところがありますからね。

「フィリップ・スタルクの金色のウンコ」サビール吾妻橋ホール、1989年」と並んでこんなものがある。「あの時代はこんなのできて良かったね」とか、「あの時代って変な時代だったね」と言われて、片付けられてしまう可能性はあったと思うんです。けれども、逆に今の時代になおかつこれを問うというのは、「こいつはやはり何か考えているぞ」と受け止めてくれる人

「M2」で問うたのは 「ポストモダン後」

——隈さんはひるむどころか自信を持って発表されている……。

多少、歴史的な話になるんですが、20世紀のモダニズム建築は、産業資本主義の仕組みの中の、大きな二項対立という基本的な社会構造に乗ってきたと僕は考えているわけです。

一方が、大資金を背景を持つ、大規模な工場と都市部の大オフィスで、もう一方が、郊外の住宅という二つの項目の対立です。

この二項は地理的にもはっきりとしたゾーニングで区画されるし、建築のデザインでもオフィスなどが機能と技術の表現としての単純な大きなボックスという表現をとったのに対し、住宅ではメルヘンとかヒューマンノスタルジーといった表現をとる、完全な対比の構造をとりながら、互いを補完して成り立っていたわけです。女性は住宅という資本主義の外部の場所で隔離されて生活し、男は資本主義の内部で機械的に働かされるといった二

ただ、僕がここで問題にしたいのは、こうした状況が「粛正の気分」であり、同時に、多分に非合理的になっているという事実です。なぜかという、バブルにたとえて言えば、「こんなに土地が上がるとはけしからん。土地を下げれば建材の建て直しができる」などとは言ったものの、実際は誰も具体的な新しい経済のビジョンや、住宅問題の解決法については示していなかった。

はじけた後も、ただ、皆「あれはおかしかった」と言うだけ。すごく理性的で誠実なふりをしてバブルを否定はしているけれども、新しいビジョンは見えていない。ただ、反省しているだけの時代になっているということです。

僕は、本当はそういうときだからこそ、今後のビジョンが一体どういうものか考えたいと思うし、考え続けているつもりなんです。「M2」はそうし

項対立が基本にあつて、それが空間化されていたとも言えるわけです。

ポストモダンは何だったかという、オフィスなど、本来大きなシンプルな箱だったものに、住宅的なノスタルジックなデザインのボキヤブラリーをかぶせる動きだったわけです。ヒューマンなボキヤブラリーが、住宅といった女性や子どもの世界だ

